

第4章 嘉手納町が目指す観光振興の方向性

1. 嘉手納町の観光振興の基本理念

第2次嘉手納町観光振興基本計画では、第1次嘉手納町観光振興基本計画の基本理念を踏襲し、観光地域づくりに向けた取組みを推進していきます。

基本
理念

**嘉手納の魅力を再発見！
みんなでとりくむ交流のまちづくり**

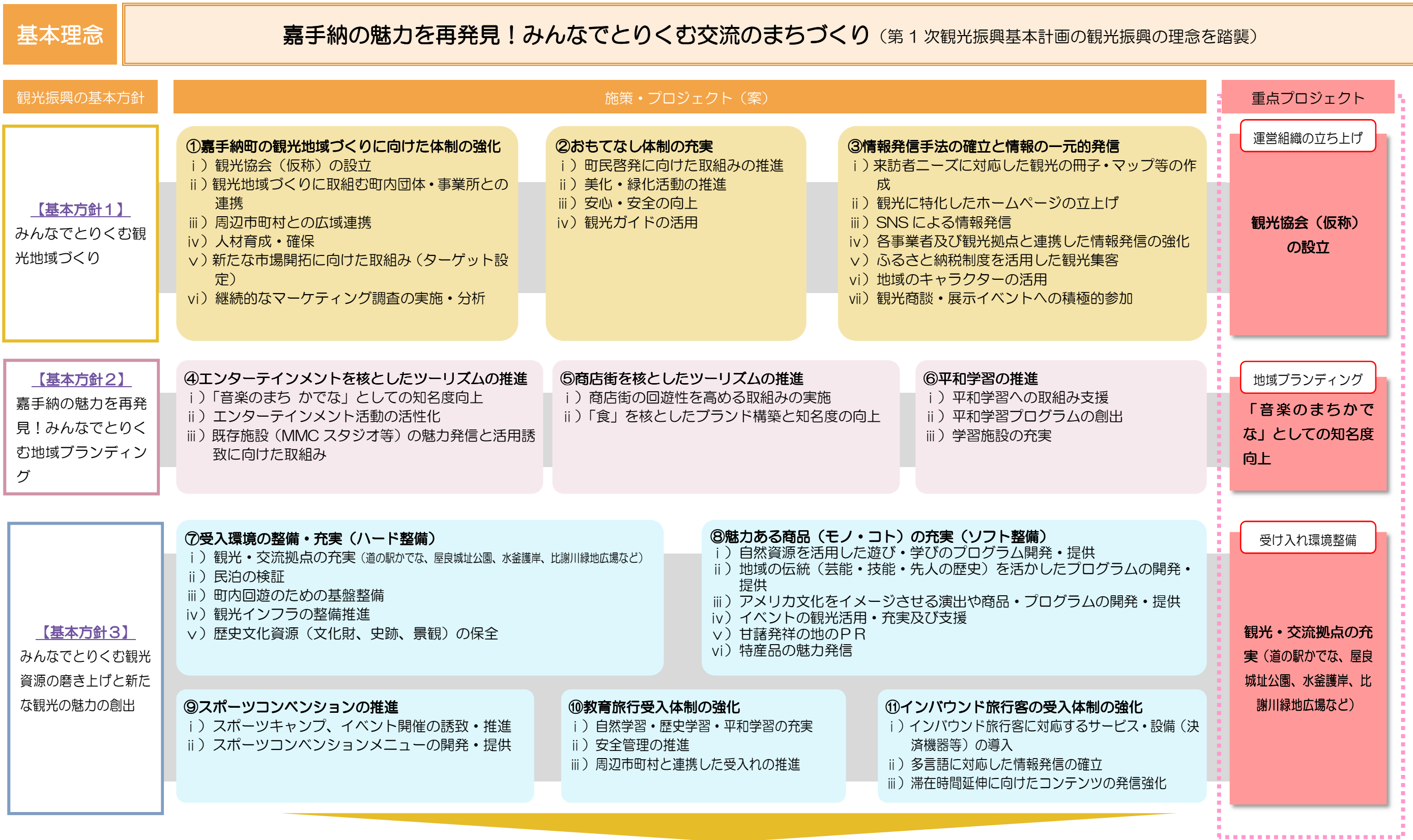
嘉手納町では、第4次嘉手納町総合計画において、「将来像」として「ひと、みらい輝く交流のまち かでな」を掲げてまちづくりを行ってきました。嘉手納町における「観光」は、これまで培ってきた「交流」の延長にあると言えます。

まずは、町内において町民や事業者、団体、行政など多様な主体が交流し、嘉手納の魅力を再発見し、町民が住んでいて満足できる「住んでよし」のまちづくりを行います。他地域の人にもお奨めしたい魅力が見つかったら、その魅力を、町外、県外、海外へと発信して観光・交流の輪を徐々に広げていきます。

観光・交流により来訪者を受け入れ、観光プログラムやイベント、飲食や買い物での観光消費の拡大に向けて、観光事業者だけでなく、幅広い分野の産業参画につなげること、受け入れ体制として、観光ガイドや地域の美化・緑化活動、地域の伝統芸能やエンターテインメントなど広く町民の参画を促すことなど、「みんなでとりくむ」交流のまちづくりを進めます。

2. 観光振興基本計画体系

(1) 体系図



進捗管理（観光振興による経済波及効果の検証（継続したデータ収集、事業間連携）、重点プロジェクトのKPI^{（注1）}の設定

（注1）…KPI（Key Performance Indicator） 重要業績評価指数（現在の嘉手納町の観光の定量的に把握するための数値）

(2) 嘉手納町の観光地域づくりを進めるための基本方針

基本理念に基づき、次の3つの基本方針を定めます。

基本方針1 みんなでとりくむ観光地域づくり

観光は観光客だけに向けたものではなく、地域を良くする、元気にするという一つの手段です。そのため、観光を主軸とした地域づくりを推進するにあたっては、行政、事業者、地域団体、町民が同じ方向を向いて、地域が一丸となり観光地域づくりに取り組むことが必要です。

そのため、嘉手納町の観光地域づくりの舵取り役となる組織を設立します。また、おもてなし体制として、美化・緑化や安心・安全の向上、嘉手納町の魅力を伝えるための一元的な情報発信、「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりに向けた取組みを実施することで、嘉手納町の魅力が高まっていきます。

基本方針2 嘉手納の魅力を再発見！みんなでとりくむ地域ブランディング

現在の嘉手納町では、通過型の観光が主流となっています。少しでも長く嘉手納町に滞在してもらい、嘉手納町を通過地点ではなく、目的地としてもらうためには、嘉手納町の強みを活かした、地域の知名度を高める取組と演出、情報発信が必要となります。そのためには、一人ひとりが嘉手納町の魅力に気づき、地域の誇りとして発信していくことが重要です。

エンターテインメント、商店街を核としたツーリズムの推進と、平和学習の推進により、「嘉手納町といえば〇〇」というような確固たる強みを醸成します。

基本方針3 みんなでとりくむ観光資源の磨き上げと新たな観光の魅力の創出

観光地域づくりを推進するにあたっては、地域の「稼ぐ力」を付けることが重要です。そのため、多様化する観光のニーズに対応した施設・環境・商品・プログラムの整備を図ります。

観光・交流の拠点となるハード整備を進めるとともに、自然、地域の伝統、アメリカ文化やイベント、甘藷発祥の地について体験できる「コト」の充実を図ります。

また、特に対応したいターゲットとして、スポーツコンベンション、教育旅行、インバウンド旅行客の受け入れ強化に向けた取組を推進します。

第5章 嘉手納町観光振興の具体施策

1. 施策とプロジェクト

各基本方針に基づいて、推進していく施策とプロジェクト内容を整理します。

具体的な取組の実施時期については、取組内容と取組効果を考慮して設定するものとし、短期は1～5年（2018(平成30)年度～2022年(平成34)年度、中期は6～7年(2023(平成35)年度～2024(平成36)年度での着手、長期は計画期間以降も継続して検討を行うものです。

取組期間は矢印で表しており、重点的に実施する期間は実践、継続して実施する期間または準備期間は点線とします。

また、各プロジェクトにおいて実施主体を明確にし、各プロジェクトを推進していきます。なお、短期の観光地域づくり推進団体の設立を目指すことから、実施主体は設立検討時に再度検討し、役割の分散をしていきます。

基本方針1 みんなでとりくむ観光地域づくり

《施策①》嘉手納町の観光地域づくりに向けた体制の強化

嘉手納町の観光地域づくりを推進するためには、行政、観光事業者、さまざまな団体、そして地域住民が同じ方向を向いて取組みを行うことが必要です。観光地域づくりの舵取り役となる嘉手納町の観光地域づくりを担う観光地域づくり推進団体の設立を目指し、取組みを行います。嘉手納町が一丸となった観光地域づくりを進めます。

《プロジェクト》

i) 観光地域づくり推進団体の設立

嘉手納町の観光地域づくりの舵取り役を担う組織を設立します。従来の観光事業者のみが参画する観光協会ではなく、多様な参画者（行政、観光事業者、1次産業従事者、各種団体、地域住民など）を巻き込み、嘉手納町が一体となり、観光地域づくりを推進していきます。

ii) 観光地域づくりに取組む町内団体・事業所との連携

嘉手納町の観光地域づくりを推進するにあたっては、各種町内団体や事業所との連携が不可欠です。イベントや滞在型観光のプログラムの創出、また来訪者への「おもてなし」の体制を強化するにあたって、日ごろから意見交換を行うなど、合意形成の機会を創出し、連携を強化していきます。

iii) 周辺市町村との広域連携

嘉手納町の来訪者を増やし、多様化する観光ニーズに対応するためには、嘉手納町に不足している宿泊機能等を強化するため、周辺市町村との広域連携が必要です。特に沖縄中部地域として一体的な情報発信や広域連携を図ることでプログラムの充実が図れる教育旅行、平和学習、インバウンド旅行客の受入れに関して広域連携推進の働きかけと、連携の方策について検討します。

iv) 人材育成・確保

嘉手納町の観光地域づくりを推進していくためには、専門人材の育成・確保が重要です。特に、戦略的な観光地経営を進めるにあたり、地域の様々な事業者や住民と連携を図り、マーケティングやプロモーションを担う人材を確保することが必要です。育成にあたっては、他地域の視察や専門家を招聘した勉強会の開催などを行い、幅広い知見を得られるよう環境を整備します。

v) 新たな市場開拓に向けた取組み（ターゲット設定）

嘉手納町の来訪者数を増やすためには、戦略的な取組みを検討することが必要です。各種データ収集及び来訪者のニーズ調査等を継続的に実施し、データを基に嘉手納町が呼び込むべき客層を明確にし、効果的なPR活動に繋がります。

vi) 継続的なマーケティング調査の実施・分析

戦略的な観光地域づくりに関する取組を実施するために、継続的なマーケティング調査を行います。特に、目標指標に定めた観光入込客数及び観光消費額単価や、イベントの来場者数、観光拠点の来訪者数等については毎年継続的に測定していくと共に、必要に応じて事業者への意向調査や来訪者満足度調査等を実施していきます。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
観光協会（仮称）の設立	→			◎	○	○
観光地域づくりに取組む町内団体・事業所との連携	→			◎	◎	
周辺町村との広域連携	→			◎	○	
人材育成・確保	→	-----→		◎		
市場開拓に向けた取組みの実施（ターゲット設定）	→			◎	○	
継続的なマーケティング調査の実施・分析	→			◎	○	

《施策 ②》おもてなし体制の充実

「住んでよし、訪れてよし」の嘉手納町を目指す上で、「おもてなし」の体制を充実させることが必要です。「おもてなし」体制の充実を図るためには、町民一人ひとりが嘉手納町を知り、「嘉手納町に住んで良かった」と誇りに思いつづけられる仕組みが必要です。

《プロジェクト》

i) 町民啓発に向けた取組みの推進

嘉手納町の観光地域づくりを進めるためには、「観光地域づくりは決して来訪者のみに向けたものではなく、観光を主軸とした地域づくりである」という意識の共有の場を創出することが必要です。

町民の観光地域づくりに関する意見交換の機会を設け、嘉手納町が一体となり、観光地域づくりに向けた取組みを推進していきます。

ii) 美化・緑化運動の推進

現在、嘉手納町ではボランティアによる美化・緑化活動を継続的に実施しています。美しいまち並みを保ち、回遊していて楽しい空間を演出するため、美化ボランティアの助成を継続するとともに、町花であるハイビスカスの普及等、美化・緑化の活動を積極的に支援します。

iii) 安心・安全の向上

地震・津波を含む大規模災害の発生時の安全を確保する取組みを推進します。嘉手納町では防災マップで多言語表記した観光客の避難経路の記載を行うなど、安心・安全の取組みを継続して実施していることから、今後も引き続き強化していくものとします。

iv) 観光ガイドの活用

観光ガイドのより効果的・効率的な実施運営、基盤の強化を実施していきます。特にガイド料の適切な設定の検討、予約方法の検討、旅行者のニーズに添ったルート開発、新たな資源の発掘等を継続的に実施していくものとします。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
町民啓発に向けた取組みの推進	→	→	→	◎		○
美化・緑化運動の推進	→	→	→		◎	○
安心・安全の向上	→	→	→	◎	◎	
観光ガイドの活用	→	→	→	◎		

《施策 ③》情報発信手法の確立と情報の一元的発信

嘉手納町の情報を、「お客様目線」に立ち地域の事業者等と連携し、一元的に発信していきます。また、現在まで嘉手納町に観光に特化したホームページがなかったことから、観光協会（仮称）の設立を機に、情報発信を強化します。

マーケティングデータの効果的な活用や、観光イベントの積極的な参加により、嘉手納町の知名度の向上と新たな顧客の獲得に向け、戦略的かつ効果的なPRを目指します。

《プロジェクト》**i) 来訪者ニーズに対応した観光の冊子・マップ等の作成**

地域に訪れた来訪者に嘉手納の魅力伝えることができるように冊子やマップを作成します。冊子は「観光客目線」かつ多様な機関と連携して作成し、嘉手納町の情報が一元的に入手できるものとしします。

ii) 観光に特化したホームページの立上げ

観光協会（仮称）の立上げに向け、嘉手納町の観光に特化したホームページを作成します。ホームページは観光の冊子・マップと同様に情報を一元的に入手でき、アクセス数やユーザー分析等のデータ解析ができるものとし、嘉手納町観光のデータとして継続的に把握していきます。

iii) SNSによる情報発信

Facebook、Twitter、InstagramなどのSNSを効果的に活用し、情報発信の頻度を高くするとともに、嘉手納町を応援し、また、関心を寄せる人たちとの相互コミュニケーションを図ることで、嘉手納町のファンを増やすことにつなげます。

iv) 各事業者及び観光拠点と連携した情報発信の強化

地域の事業者及び観光拠点と連携し、嘉手納町の多様な魅力を発信することに取り組みます。多様な観光ニーズに対応するために、観光の多様な担い手との連携による幅広い情報発信に努めます。

v) ふるさと納税制度を活用した観光集客

ふるさと納税の仕組みを活用し、嘉手納町に実際に訪れていただくような仕組みづくりを検討します。

vi) 地域のキャラクターの活用

2005（平成17）年に開催された「野國總管甘藷伝来400年祭」を機に誕生したキャラクターの「野國いもっち」をイベント等を通じてさらにアピールするとともに、「野國いもっち」によるSNSを活用した嘉手納町の観光の発信を行い、親しみやすさを醸成します。

vi) 観光商談・展示イベントへの積極的参加

地域の事業者と連携し、県内外の観光商談・展示イベントに積極的に参加し、嘉手納町の知名度の向上を目指します。また、教育旅行等、新たな客層を取り込みます。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
来訪者ニーズに対応した観光の冊子・マップ等の作成	→	-----→	→	◎	○	
観光に特化したホームページの立ち上げ	→	-----→	→	◎	○	
SNSによる情報発信	→			◎		
各事業者及び観光拠点と連携した情報発信の強化	→			◎	◎	
ふるさと納税制度を活用した観光集客	→	-----→	→	◎	○	
地域のキャラクターの活用	→			◎		
観光商談展示イベントへの積極的参加	→			◎	○	

基本方針2 嘉手納の魅力を再発見！みんなでとりくむ地域ブランディング

《施策④》エンターテインメントを核としたツーリズムの推進

嘉手納町は「音楽」「プロレス」など、様々なエンターテインメントがあります。これらを嘉手納町の地域資源として発信・磨き上げをし、嘉手納町のブランドとして確立していきます。

《プロジェクト》

i) 「音楽のまち かでな」としての知名度向上

「うたの日コンサート」を誘致することで、観光客が嘉手納町に訪れる機会をつくれます。嘉手納町では音楽によるまちづくり推進に関する補助金を交付しており、かでなGO!GO!フェスティバル、民謡大会をはじめとする、町内の音楽イベントを積極的に支援します。また、ライブハウスや店舗での音楽活動も観光資源として発信するとともに、町内外のミュージシャンとの関係づくりを推進していきます。

ii) エンターテインメント活動の活性化

嘉手納町内に拠点を置くプロレス団体やダンスチームと連携を図り、エンターテインメントの活動を積極的に展開していきます。

iii) 既存施設（MMC スタジオ等）の魅力発信と活用誘致に向けた取組み

嘉手納町には本格的な音楽機材が揃うMMC スタジオ等、充実した施設があります。既存施設の魅力効果を効果的に発信し、プロ・アマ問わず創作を活動誘致する「ミュージックツーリズム」など、新たな観光の方向性を検討します。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
「音楽のまち かでな」としての知名度向上	→			◎	○	○
エンターテインメント活動の活性化	→			◎	○	○
既存施設（MMC スタジオ等）の魅力発信と活用誘致に向けた取組み	→	→	→	◎		

《施策 ⑤》商店街を核としたツーリズムの推進

新町通り商店街は嘉手納町の要となり得る場所です。商店街の魅力を高めることで、嘉手納町内の滞在時間の延長と地域内の経済効果が期待されます。

嘉手納町内には「バーガー」を取り扱う店舗が多いのも特徴的で、「かでなバーガー」として一体的な取組みをはかり、知名度の向上に繋がります。

《プロジェクト》**i) 商店街の回遊性を高める取組みの実施**

商店街の店舗の魅力向上に対する取組や、回遊性を高めるマップの作成及びサイン整備を行います。また、各種イベント等とも連携し、商店街イベントの開催や、クーポンなどを発行し、集客力と来訪者の満足度を高める取組みを実施します。

ii) 「食」を核としたブランド構築と知名度の向上

嘉手納町では「優良特産品推奨品」を認定する制度があり、認定されている商品の多くが食品であることから、食を中心とした嘉手納町の特産品の魅力を発信するイベントやPRを実施します。

特に、嘉手納町内には全国で3位になったバーガーショップがあり、食を目当てに多くの来訪者が訪れています。地域内のバーガーショップと連携し、「かでなバーガー」として一元的に発信するとともに、「バーガーといえば嘉手納」となるブランド構築に向けた支援を行います。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
商店街の回遊性を高める取組みの実施	→			◎	○	
「食」を核としたブランド構築と知名度の向上	→			○	◎	

《施策 ⑥》平和学習の推進

町域の約 82%を基地が占める嘉手納町の米軍基地の歴史や、戦前の嘉手納町の様子、戦後の復興などを学ぶ機会を創出します。

平和学習は、その背景や騒音問題により、積極的に観光資源として活用することが困難な面もありました。諸問題を解決する取組みを継続しながらも、正しい嘉手納町の歴史を伝え、また次世代に受け継いでいく取組みが必要であることから、観光資源としての活用を図っていきます。

《プロジェクト》

i) 平和学習への取組み支援

嘉手納町の特徴を生かし、現在・過去・未来の3つの観点から平和学習に向けた取組みを行う活動や各種整備を支援します。周辺自治体との連携を強めて実施するだけでなく、町民及び町出身者が参画する平和学習への取組みの促進を図り、嘉手納町に関わる人を増やします。

ii) 平和学習プログラムの創出

嘉手納町の戦前・戦後、そして現在の歴史について正しい情報を伝えるためのプログラムを検討します。平和学習について解説・案内することのできる専門のガイドや語り部の育成に努め、スルーガイドによる「誤った情報」が来訪者に伝わることを無きよう配慮します。

iii) 学習施設の充実

嘉手納町の平和学習の拠点として、道の駅かでなにある学習施設の充実を図ります。県内外のみならず海外からの来訪者や戦争を知らない若い世代にも、基地の姿や基地のある暮らしについて学ぶ場を提供し、平和について考えるきっかけを創出します。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
平和学習への取組み支援	→			◎	○	○
平和学習プログラムの創出	→	⋯	→	◎		○
学習施設の充実	→	⋯	→	◎		

基本方針3 みんなでとりくむ観光資源の磨き上げと新たな観光の魅力の創出

《施策⑦》受入環境の整備・充実（ハード整備）

来訪者を十分にもてなす体制を整えるため、観光拠点の充実や回遊性を高める基盤整備を行います。嘉手納町内には宿泊事業者が少ないことから、地域住民に協力を仰ぎ、民泊の受入れの可能性及び実施についても検証していきます。

また、歴史文化遺産の保存・活用と発信に向けた取組みを支援していきます。

《プロジェクト》

i) 観光・交流拠点の充実（道の駅かでな、屋良城跡公園、水釜護岸、比謝川緑地広場など）

道の駅かでなのリニューアルとして、来訪者ニーズに対応する飲食、物販機能や情報発信、展望機能の強化を行います。屋良城跡公園については屋良城跡の歴史文化や自然環境を体験ができる施設・設備の整備を行います。また、水釜護岸の整備により、眺望・散策の新たなスポットとしての活用を促進します。比謝川緑地広場については、比謝川の自然を活かした拠点整備を行い、カヤックやエコツアーでの活用を促進します。

ii) 民泊のありかた検証

宿泊施設の少ない本町においても、宿泊により地域の生活・文化を体感し、来訪者の観光消費を高め、滞在時間を延伸することができる取組み、また空き家対策として、民泊の推進とその効果検証を行います。教育民泊として修学旅行等での受入れの効果検証や、今後の法整備に合わせ、一般旅行客の嘉手納体験、外国人ニーズへの対応等の可能性検証を実施します。

iii) 町内回遊のための基盤整備

海岸エリア、比謝川、中心市街地、道の駅等に分布する観光施設・拠点を回遊できるよう、公共交通をはじめとしたレンタサイクル、レンタカー・自家用車移動でのアクセス向上のための道路案内や駐車場の充実に取り組みます。

iv) 観光インフラの整備推進

観光情報の効果的な発信のため、公共無線 LAN 等の整備により、特にインバウンドに対応する拠点での案内の充実に取り組みます。

v) 歴史文化資源（文化財、史跡、景観）の保全

屋良グスクの遺構や地域に点在する拝所やカー、先人の墓や碑などの歴史的資源、地域の生活に根付いた資源の保全に努めます。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
観光・交流拠点の充実（道の駅かでな、屋良城跡公園、水釜護岸、比謝川緑地広場など）	→	→	→	◎		
民泊のありかた検証	→	→	→	◎	○	◎
町内回遊のための基盤整備	→	→	→	◎		
観光インフラ推進	→	→	→	◎		
歴史文化資源（文化財、史跡、景観）の保全・活用	→	→	→	◎		

＜施策 ③＞魅力ある商品（モノ・コト）の充実（ソフト整備）

近年の観光形態は、体験型・交流型の要素を取り入れたものが主流となっていており、モノ消費からコト消費へと変化しています。

嘉手納町の自然資源や嘉手納町の魅力あるヒト、芸能、アメリカ文化等を活用したプログラムを開発・提供していきます。

＜プロジェクト＞

i) 自然資源を活用した遊び・学びのプログラム開発・提供

比謝川や水釜海岸の豊かな自然を活かした、カヤックやサップ、ダイビングのプログラムの充実や、比謝川緑地広場等を活用した自然を学ぶエコツーリズムのプログラム開発・提供に取り組めます。

ii) 地域の伝統（芸能・技能・先人の歴史）を活かしたプログラムの開発・提供

千原エイサーや屋良のチンク、屋良のあやぐ、野里棒、野里の道入り区、野国天川などの伝統芸能の観光活用として、地域行事への来訪者の参加促進、芸能の体験プログラムなどの開発・提供に取り組めます。また、アダンの筆や漆器などの伝統技能を知るプログラム、さらに、甘藷発祥の地として野國總管や、琉球の英雄として三代目屋良大川按司、阿麻和利、琉球音楽のルーツとなる幸地亀千代・奥間盛正、沖縄空手の大家喜屋武朝徳など、嘉手納の先人の足跡を学ぶツアー商品の造成にも取り組めます。

iii) アメリカ文化をイメージさせる演出や商品・プログラムの開発・提供

他地域との差別化を図る資源として、アメリカ文化と関連した商品やサービスの開発に取り組みます。来訪者が体感できるアメリカ文化として、フリーマーケット等のイベント開催や飲食店での食メニュー提供など、来訪者が体験・消費できる商品・プログラムの開発・提供を進めます。

iv) イベントの観光活用・充実及び支援

嘉手納町では「野國総管まつり」や「エイサーまつり」、「泡盛まつり」「産業まつり」等さまざまなイベントが開催されています。これらのイベントにおいて、多くの来訪者が訪れ、楽しめるよう、魅力の向上と受入れ体制の強化を図ると共に、開催の支援を行います。

v) 甘藷発祥の地のPR

嘉手納町では野國総管の偉業と、本町が我が国における甘藷発祥の地であるということを、「野國総管まつり」を通してPRしてきました。今後もイベントの運営体制や商品開発に向けた取組みを強化し、全国的に「甘藷発祥の地・嘉手納」を幅広く周知していきます。

vi) 特産品の魅力発信

嘉手納町には町内事業者の品質の優れた製品を「優良特産品」として認定・推奨する制度があります。来訪者のお土産品としての特産品の活用や、イベント等でのPRを実施し、特産品の知名度と魅力を高める取組みを行います。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
自然資源を活用した遊び・学びのプログラム開発・提供	→→	→	○	◎	
地域の伝統（芸能・技能・先人の歴史）を活かしたプログラムの開発・提供	→→	→	◎		○
アメリカ文化をイメージさせる演出や商品・プログラムの開発・提供	→→	→	○	◎	
イベントの観光活用・充実及び支援→	→	◎	○	
甘藷発祥の地の発信→	→	◎		
特産品の魅力発信→	→	○	◎	

《施策 ⑨》スポーツコンベンションの推進

日本で唯一亜熱帯に属する沖縄では、温暖な気候のもと一年中さまざまなスポーツを行うことができます。県内各地にはプロスポーツの人気チームが訪れたり、国際的なスポーツ大会が開かれたりと、スポーツコンベンションにおいて最適な環境が整っています。

嘉手納町においても嘉手納運動公園（野球場、陸上競技場、スポーツドーム、多目的広場）や兼久海浜公園（総合運動場、ソフトボール場、テニスコート、兼久体育館）などの施設が整備され、DeNA ベイスターズファーム、韓国プロ野球のロッテジャイアンツの春季キャンプ、また大学生や社会人（野球、陸上、ソフトボール等）の受入れを行っています。

今後、これらの資源や取組みを活かし、スポーツ施設の充実と受入れ体制の強化、スポーツ合宿と連携した観光プログラムの造成等に取り組めます。

《プロジェクト》

i) スポーツキャンプ、イベント開催の誘致・推進

スポーツキャンプやスポーツイベントの誘致活動を積極的に行い、スポーツを嘉手納の新たな観光資源として発信します。

ii) スポーツコンベンションメニューの開発・提供

スポーツ資源を観光産業につなげるため、スポーツ合宿や自然環境を活かしたメニューの開発・提供を行います。また、プロのスポーツキャンプを目標に訪れるファンに対し、スポーツ合宿と連動した滞在コンテンツを造成します。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
スポーツキャンプ、イベント開催の誘致・推進	■■■➡	➡	■■■➡	◎	○	
スポーツコンベンションメニューの開発・提供	■■■➡	➡	■■■➡	◎	○	

＜施策 ⑩＞教育旅行受入体制の強化

嘉手納町の入込客数 100 万人の達成及び観光による経済効果を高めるためには、安定した旅行者の確保が必要となることから、教育旅行の誘客に向けた取組みを強化していきます。近年教育旅行のニーズは自然学習や歴史・文化の探訪、平和に関する学習等多様化していることから、町民及び事業者、周辺自治体等と連携したプログラムの創出や受入の整備を行います。

＜プロジェクト＞

i) 自然学習・歴史学習・平和学習の充実

修学旅行生の受入れに向け、団体での対応可能な比謝川や水釜海岸等の自然資源、屋良グスクや先人、伝統芸能等の歴史資源を活かした体験プログラム、沖縄戦とその後の復興、嘉手納基地問題を学ぶプログラムの開発に取り組みます。プログラムのガイド・語り部の育成を進めることにも取り組みます。

ii) 安全管理の推進

受入れにあたっての安全管理の徹底を図ります。観光施設や体験プログラムでの安全対策、事故時の医療機関等との連携強化や、台風や地震・津波等防災面での安全対策にも取り組みます。

iii) 周辺市町村と連携した受入れの整備

修学旅行の団体受入れに向けては、周辺市町村との連携を図り、効果的に受入れができる体制を整備します。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
自然学習・歴史学習・平和学習の充実	→→→	◎	○	○
安全管理の推進	→→→	◎	○	
周辺市町村と連携した受入れの整備	→→→	◎	○	

《施策 ⑩》インバウンド旅行者の受入体制の強化

国では、訪日外国人旅行者数を平成32年に4千万人、訪日外国人旅行消費額を8兆円とすることを目標に掲げ、取組みを進めています。

沖縄県においてもクルーズ船の寄港回数の増加により外国人旅行者が急激に増えており、嘉手納町もツアーに組み込まれていることから、訪日外国人旅行者に対応した受入環境の整備を進めます。

《プロジェクト》

i) インバウンド旅行者に対応するサービス・設備（決済機器等）の導入

クレジットカードや免税等の設備を整え、訪日外国人が快適に嘉手納町内で過ごせる環境づくりを行います。また、外国語に対応できるガイドの育成を行い、嘉手納町を訪れた訪日外国人と交流の機会の創出を図ります。

ii) 多言語に対応した情報発信の確立

多言語に対応したパンフレットやホームページの整備を行います。また、地域で開催されるイベントに関しては米軍用のラジオ等を活用して発信し、沖縄県内在住の外国人が嘉手納町を訪れるよう誘導します。

iii) 滞在時間延伸に向けたコンテンツの発信強化

現在の訪日外国人の嘉手納町内での滞在は、団体旅行者が道の駅かでなを休憩所として使用するのみに留まっていました。商店街の回遊や比謝川での体験プログラムへの参加を促す取組みを行い、嘉手納町内の滞在時間の延伸と消費額の向上を目指します。

また、魅力的なコンテンツをつくることで、個人の旅行者の誘客を促進します。

プロジェクト内容	実施時期・期間			実施主体		
	短期	中期	長期	行政	民間	町民
インバウンド旅行者に対応するサービス・設備（決済機器等）の導入	→→	→	◎	○	
多言語に対応した情報発信の確立	→→	→	◎	○	
滞在時間延伸に向けたコンテンツの発信強化	→→	→	◎		

2. 重点プロジェクト

以上の施策やプロジェクトの実行にあたっては、観光地域づくりを担う組織を立ち上げ、地域のブランド力を高め、知名度と魅力を発信、地域の稼ぐ力を創出、地域の受け入れ体制の強化を図るという考えに基づき、以下の3つのプロジェクトを重点プロジェクトとして位置付け、早期の着手を図ります。

観光地域づくりに向けた組織の立上げ

「音楽のまち かでな」としての知名度向上

観光・交流拠点の充実 (道の駅かでな、屋良城跡公園、水釜護岸、比謝川緑地広場など)

(1) 観光地域づくりに向けた組織の立上げ

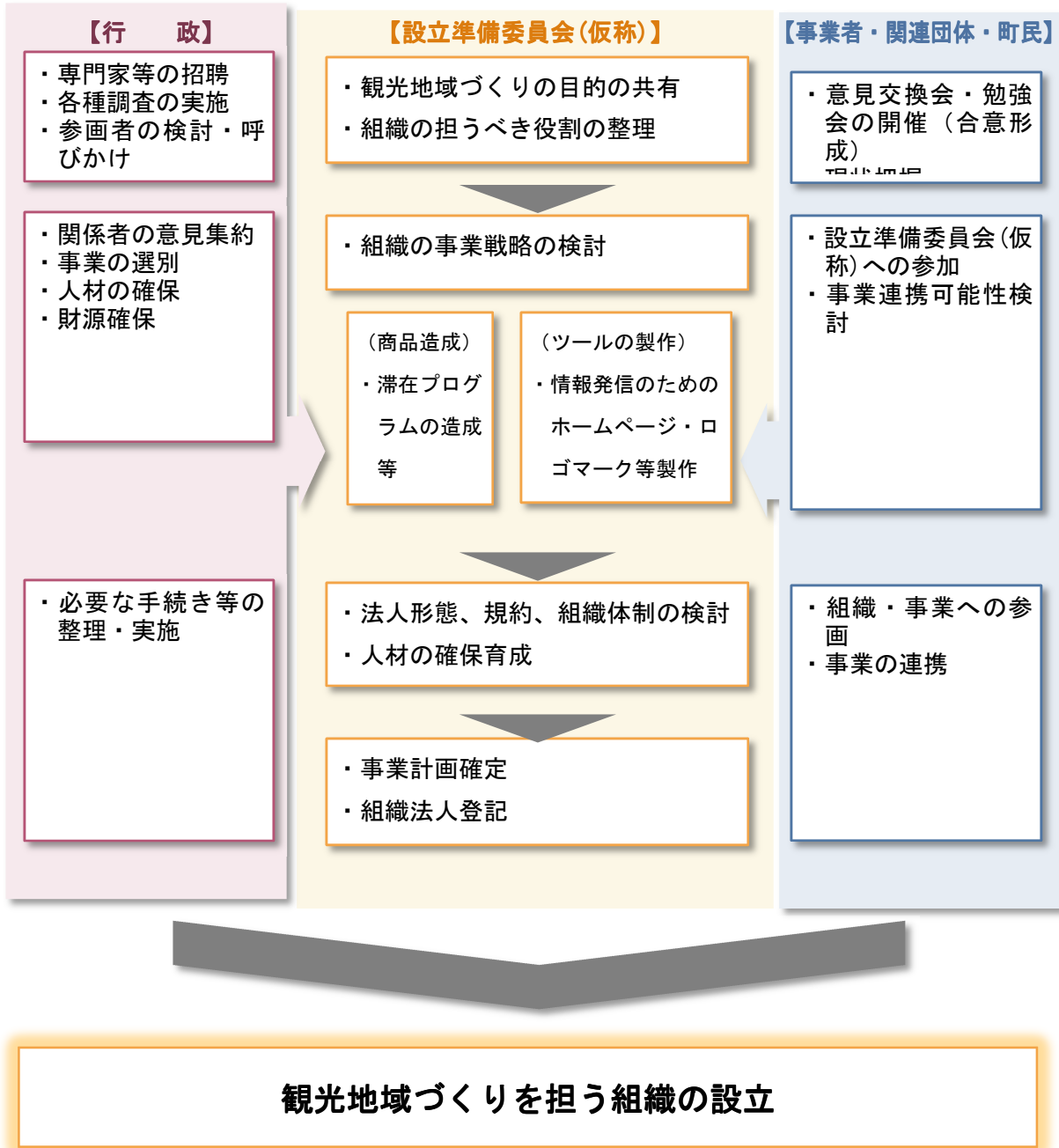
①嘉手納町の観光地域づくりに向けた取組みの現況

- ・第1次嘉手納町観光振興基本計画策定時に、町内の事業者らが参画する「観光振興懇談会」が立ち上がり、美化活動等に取り組んできました。ただし、現在嘉手納町では観光を専門とする機関や部署がないことから、町民に向けたサービスと来訪者に向けた事業が混同している状況です。
- ・目標値の「来訪者100万人」及び「観光消費額単価2,500円」を達成するためには、行政、事業者、町内団体、町民が同じ方向を向いて取組みを進めることが重要です。
- ・そのためには、観光地域づくりを担う「舵取り役」となる、組織の設立が必要となります。

②重点プロジェクトとしての実施内容

- ・組織の設立に向けて、嘉手納町の観光地域づくりの目的を町民、事業者と共有し、組織立ち上げに向けて体制、事業内容等の検討を進める必要があります。

【設立に向けた取組案】



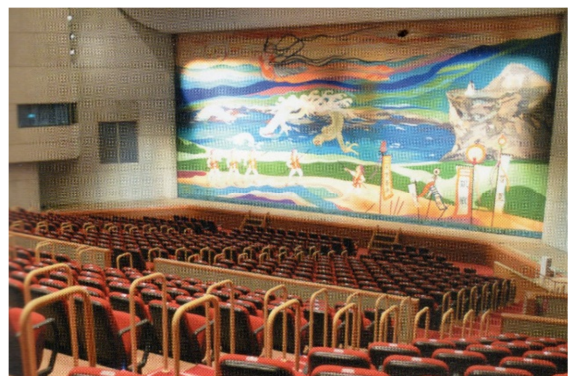
(2)「音楽のまち かでな」としての知名度向上

①「音楽のまち かでな」

- ・嘉手納町は、沖縄本島のほぼ中間という立地条件に恵まれているため、かつては県営鉄道の終点になっており、中頭郡における経済、文化、教育の中心としての役割を果たしていました。
- ・そのような背景から、嘉手納町には、幸地亀千代・奥間盛正といった琉球音楽のルーツとなる先人や、沖縄民謡界のスター、ネーネーズメンバーなど、現在に至るまで沖縄音楽を先導する人材を輩出しています。
- ・町内では、ライブハウスや店舗での音楽活動も活発に行われおり、イベントも多く開催されています。

②重点プロジェクトとしての実施内容

- ・うたの日コンサートやかでな GO!GO!フェスティバル、民謡大会をはじめとする、町内の音楽イベントの誘致や実施に向けた支援を継続的に実施します。
- ・イベントの開催を可能とする施設・設備の維持管理に努めます。
- ・ライブハウスや店舗での音楽活動も観光資源として発信・活用していきます。
- ・町民による音楽活動の振興に向けた機会の創出に取り組みます。
- ・「音楽のまち」としての情報発信、ミュージシャンとの関係づくり、イベント企画運営・誘致等を可能とする体制の強化も積極的に推進します。



(3) 観光・交流拠点の充実

(道の駅かでな、屋良城跡公園、水釜護岸、比謝川緑地広場など)

①観光・交流拠点の現状

- ・道の駅かでなは、嘉手納基地の見学や飲食・買い物での利用など、嘉手納町の観光・交流拠点となっています。現在、リニューアルに向けた検討・設計を進めています。
- ・また、近年は比謝川でのカヤックやサップ、水釜海岸からのダイビングを楽しむ方も増えている状況です。比謝川には自然を活かした拠点整備として比謝川緑地広場の整備、水釜海岸でも護岸の整備の検討が進んでいます。

②重点プロジェクトとしての実施内容

- ・道の駅かでなのリニューアルを実施し、来訪者ニーズに対応する飲食、物販機能や情報発信、展望機能の強化を行います。
- ・屋良城跡公園については屋良城跡の歴史文化や自然環境を体験ができる施設・設備の整備を行います。
- ・水釜護岸の整備により、眺望・散策の新たなスポットとしての活用を促進します。
- ・比謝川緑地広場については、比謝川の自然を活かした拠点整備を行い、カヤックやエコツアーでの活用を促進します。
- ・これら観光・交流拠点の活用促進のために、運営体制の強化に取り組み、そこでのサービス・商品の充実に努めます。

③整備予定の主な施設

1. 道の駅かでなリニューアル事業
平成33年度 供用開始予定
2. 比謝川緑地広場整備事業
平成33年度 供用開始予定
3. 水釜護岸景観整備事業
平成34年度 供用開始予定

第6章 嘉手納町観光振興の実現に向けて

1. 観光振興の目標指標

嘉手納町の観光地域づくりに向けた取組の効果を把握・評価するために、具体的な目標を設定し、観光振興の取組を推進します。

○全体指標

- ・観光入込客数 100万人（2024（平成36）年）
- ・観光客単価 2,500円（2024（平成36）年）

○分野指標（重点プロジェクトでの指標）

- ・観光地域づくり推進団体設立：観光協会に参画する事業者・団体数 20（設立時）
- ・「音楽のまち かでな」の知名度向上：関連イベント来訪者数9万人（2024（平成36）年）
- ・観光・交流拠点の充実：道の駅かでな、比謝川緑地広場施設などの来訪者数 84万人（2024（平成36）年）

（1）全体指標

嘉手納町の観光地域づくりを推進するにあたり、来訪レベルを把握するために、嘉手納町内への観光入込客数等を継続的に測定します。

各プロジェクトの取組により地域への経済効果を高めることで、町内に活気が生まれ、地域経済が潤う仕組みづくりを目指します。

1) 目標指標

本計画においては、2024（平成36）年度に嘉手納町の観光入込客数を100万人に設定するとともに、同年の観光消費額単価を2,500円に定めます。

指標	現状	目標
観光入込客数	約52万人	100万人（2024（平成36）年度）
嘉手納町での観光消費額単価	—	2,500円（2024（平成36）年度）

※現状の入込客数は「道の駅かでな」の施設利用者数

2) 算出根拠

嘉手納町の観光入込客数の算出にあたっては、第1次嘉手納町観光振興基本計画策定時に定めた2021(平成33)年度に100万人を達成するという目標値を踏襲しています。

観光消費額の算出については、リニューアル計画策定時に設定した目標値に、体験プログラム参加料等を加えたものとしています。なお、体験プログラム参加料等の算出にあたっては、「沖縄県観光実態統計調査」の娯楽・入場料の金額を参考としています。

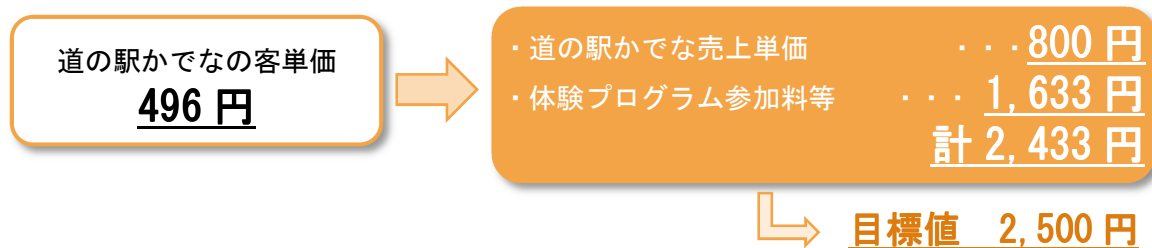
○観光入込客数

- ・第1次嘉手納町観光振興基本計画の内容を踏襲
- ・関連イベント来訪者数9万人+道の駅かでな、比謝川緑地広場施設などの来訪者数84万人+その他イベント・施設来訪者数7万人=100万人

○嘉手納町での観光消費額単価の算出根拠

《現状》

《目標値》



※客単価(496円) = 売上 ÷ 道の駅かでなの来訪者数

※レジ通過客の単価は974円(2016(平成28)年現在)

3) 測定方法

全体指標の測定方法は次の通りです。観光入込客数及び観光消費単価は毎年継続して測定するものとします。

指 標	測定方法
観光入込客数	道の駅かでな、他各施設、関連イベントで測定した来訪(参加)者数、商店街来訪者数、体験プログラム参加者数の総数にて算出。
嘉手納町での観光消費額単価	来訪者に対するアンケート調査を実施し、消費額を測定。

(2) 分野別指標

計画の進捗管理を目的に、重点プロジェクトに紐づく指標を設定します。

①観光地域づくり推進団体の設立

- ・今回の計画策定後の立ち上げを予定している観光地域づくりを推進する団体は、宿泊・体験・飲食事業者等、地域の各分野の事業者の幅広い参画を想定しています。
- ・そこで、設立の際の指標として、観光協会に参画する事業者・団体数を設定します。
- ・なお、本町の観光地域づくりを担う団体は多様な事業者及び団体、町民の参画が必要であることから、設立後も参画者数の増加に向けた取組みを継続して行うものとします。

1) 目標指標及び測定方法

嘉手納町の観光地域づくりを担う団体設立時の参画者数の目標を20団体と設定します。測定にあたっては、観光推進団体設立時の参画者数とします。

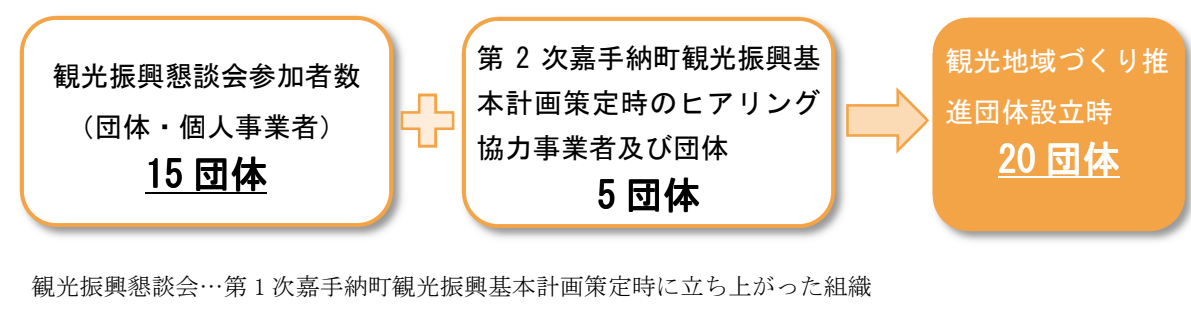
指標	現状	目標	年度	指標の測定方法
観光推進団体の参画者数	—	20	設立時	会員数および事業への参画者数。

2) 算出根拠

目標値の20団体の算出根拠としては、第1次嘉手納町観光振興基本計画策定時に立ち上がった「観光振興懇親会」の参加者数の15団体に加え、本計画の策定時にヒアリングに協力頂いた町内の事業者及び各種団体の中から5団体の参画を想定しています。

観光地域づくりを推進する団体の参画者は多岐にわたることから、設立後も継続して参画者を募るものとします。

○運営組織の立上げ：観光地域づくり推進団体の設立時の参画者数算出根拠



②音楽のまちかでの知名度向上

- ・うたの日コンサートをはじめ、町内のイベントでのライブなど音楽活動が充実する中で、嘉手納町の観光振興に向けて、「音楽のまち」の取組を観光推進の事業に位置付け、知名度の向上を図ります。
- ・事業の指標としては、「音楽のまち」関連のイベント（うたの日コンサート、野國總管まつり等）での来訪者数を設定します。

1) 目標指標及び測定方法

2024（平成36）年度までに、関連イベントの来訪者数を6万人から9万人とすることを目標とします。測定にあたっては、「うたの日コンサート」をはじめとする関連イベントの参加者数の総数とします。

指標	現状	目標	年度	指標の測定方法
関連イベント 来訪者数	6.25万人	9万人	2024年度 (平成36年度)	うたの日コンサート、野國總管まつり、泡盛まつり、ビアフェスタ、産業まつり、音楽祭等での来訪者数を測定

2) 算出根拠

「音楽のまち」関連イベントの来訪者数に、2017（平成29）年度から2024（平成36）年度までの増加係数1.48（P66参照）を掛けたものを2024（平成36）年度の目標値として定めます。

《2017(平成29)年度実績》

うたの日コンサート	7,000
ビアフェスタ	1,400
泡盛まつり	1,200
野國總管まつり	45,000
産業まつり	7,000
かでのGOGOフェスティバル(想定)	900
合計	62,500

$$6.25 \text{ 万人} \times \text{増加係数 (1.48)} \\ = 9.25$$

2024（平成36）年度目標
9万人

③観光・交流拠点の充実

- ・受け入れ環境整備として、道の駅かでなのリニューアルや、比謝川緑地広場施設、屋良城跡公園、水釜護岸などの拠点整備を計画しています。
- ・事業の指標としては、これら整備施設のうち数値測定が可能な、道の駅かでな、比謝川緑地広場施設来訪者数を設定します。

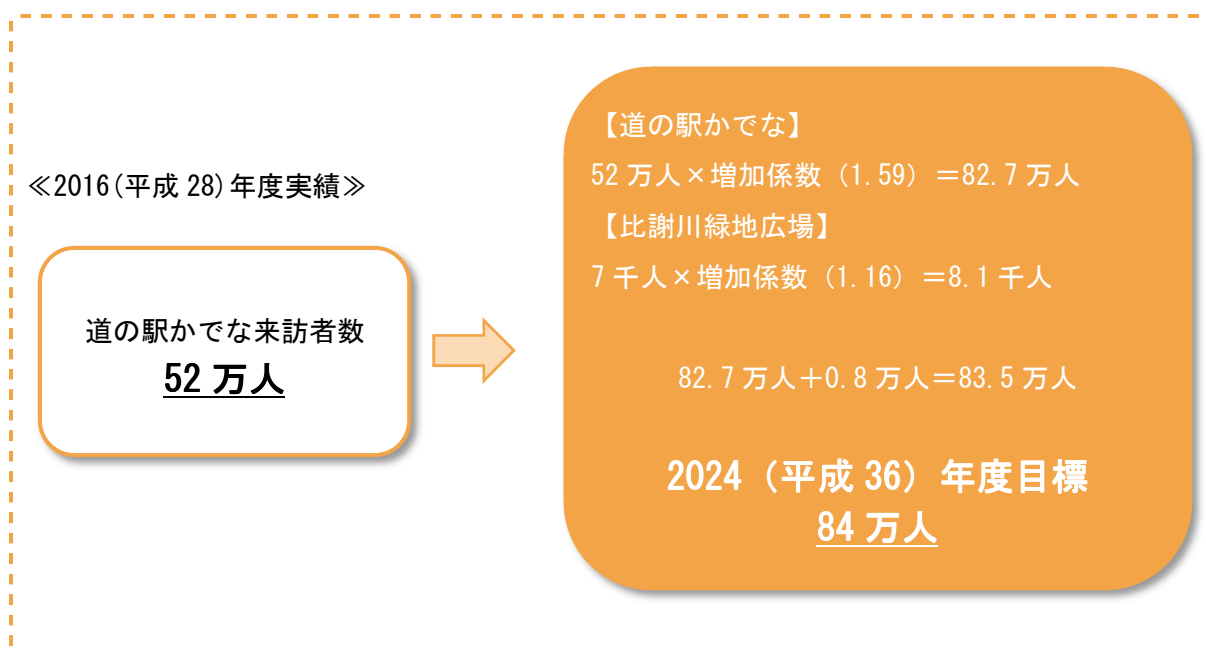
1) 目標指標及び測定方法

2024（平成36）年度までに、現状の52万人から84万人とすることを目標とします。測定にあたっては、道の駅かでな、比謝川緑地広場の来訪者数の総数とします。

指標	現状	目標	年度	指標の測定方法
施設来訪者数	52万人	84万人	2024年度 (平成36年度)	道の駅かでな、比謝川緑地広場の来訪者数の測定を実施。

2) 算出根拠

目標値の算出にあたっては、道の駅かでなの来訪者数52万人に2016（平成28）年度から2024（平成36）年度の増加係数1.59（P66参照）を掛けたものと、比謝川緑地広場の来訪者7,000人に2021（平成33）年度(供用開始予定年度)から2024（平成36）年度の増加係数1.16（P66参照）を掛けたものを足し合わせ、算出しました。



増加係数の算出について (P64、P65 関連)

第5次沖縄県観光振興基本計画改訂版(H29.3)において、2016(平成28)年度の沖縄県入域観光客数876万9千人を、2021(平成33)年度に1,200万人にすることを目標として定めています。この数字から年平均増加数を算出し、起点となる年度から目標となる年度までの増加率を増加係数として求め、第2次嘉手納町観光振興基本計画においてイベントや施設の来訪者数を推計する数値として利用しています。

		【第2次観光振興基本計画 期間】												
		←実績					→推計							
		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
入域観光客数実数	外国客(千人)	382.5	627.2	986.0	1,670.3	2,129.1	2,503	2,877	3,252	3,626	4,000	4,374	4,748	5,123
	国内客(千人)	5,542	5,953	6,184	6,266	6,640	6,912	7,184	7,456	7,728	8,000	8,272	8,544	8,816
	総数	5,925	6,580	7,170	7,936	8,769	9,415	10,061	10,708	11,354	12,000	12,646	13,292	13,939

P64 「音楽のまち」関連イベント来訪者数の増加係数

起点年度 2017(平成29)年度 目標年度 2024(平成36)年度
 2024(平成36)年度入域観光客数 ÷ 2017(平成29)年度入域観光客数 = 増加係数
 13,939人 ÷ 9,415人 = 1.48

P65 道の駅かでな来訪者数の増加係数

起点年度 2016(平成28)年度 目標年度 2024(平成36)年度
 2024(平成36)年度入域観光客数 ÷ 2017(平成29)年度入域観光客数 = 増加係数
 13,939人 ÷ 8,769人 = 1.59

P65 比謝川緑地広場来訪者数の増加係数

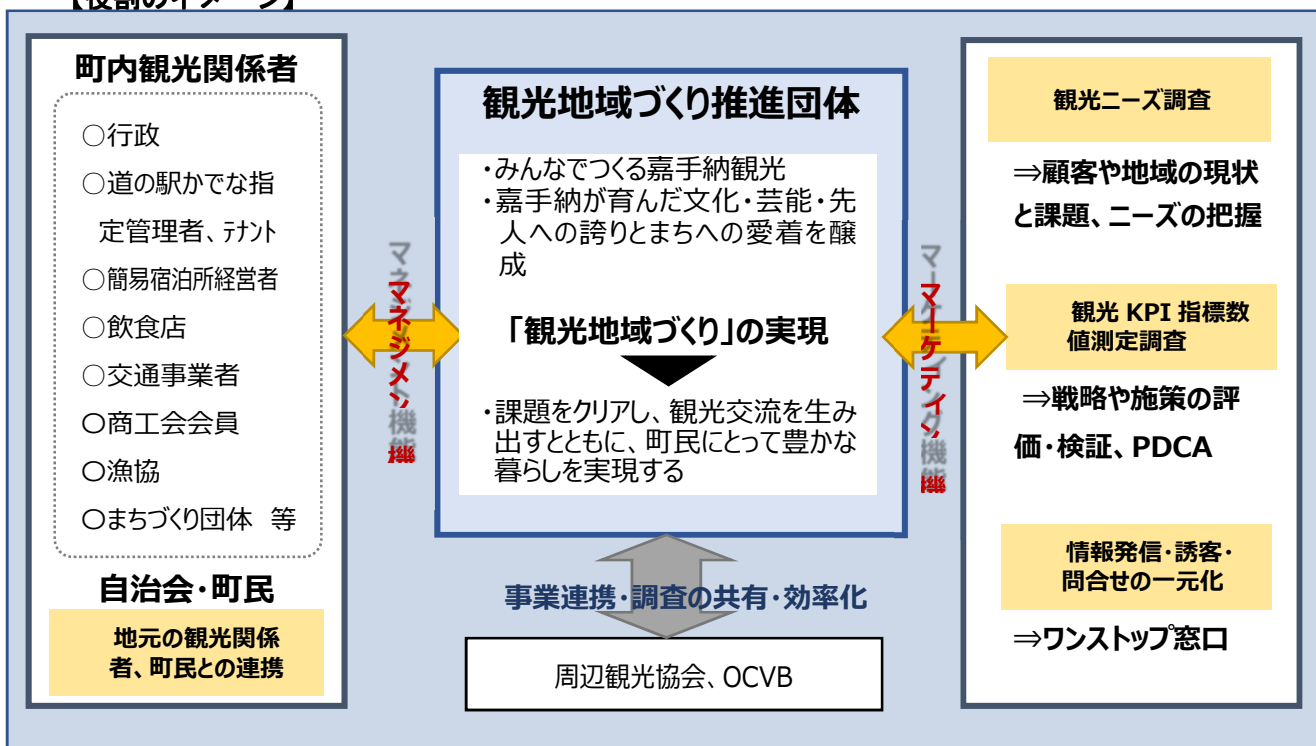
起点年度 2021(平成33)年度 目標年度 2024(平成36)年度
 2024(平成36)年度入域観光客数 ÷ 2017(平成29)年度入域観光客数 = 増加係数
 13,939人 ÷ 12,000人 = 1.16

2. 推進体制の構築

嘉手納町の観光地域づくりを推進していくにあたっては、行政、観光関連団体、観光関連事業者、各種事業者、各種団体、町民が嘉手納町の観光地域づくりの理念である「嘉手納の魅力を再発見！みんなでとりくむ交流のまちづくり」を共通認識し、相互に連携・協力する協働の取組みが重要です。行政、観光関連団体、観光関連事業者、各種事業者、各種団体、町民が一体となった体制の構築を目指します。

嘉手納町では、短期計画で観光地域づくりに向けた運営組織の立上げを定めています。「みんなで集まり、みんなで意見を出し合い、みんなでとりくむ交流のまちづくり」を目指し、嘉手納町の文化・エンターテインメント、食、人、自然など魅力ある資源やコンパクトなまち嘉手納ならではの利便性を活かした観光交流や暮らしやすい地域づくりの創出を実現するための推進体制の構築に取り組みます。

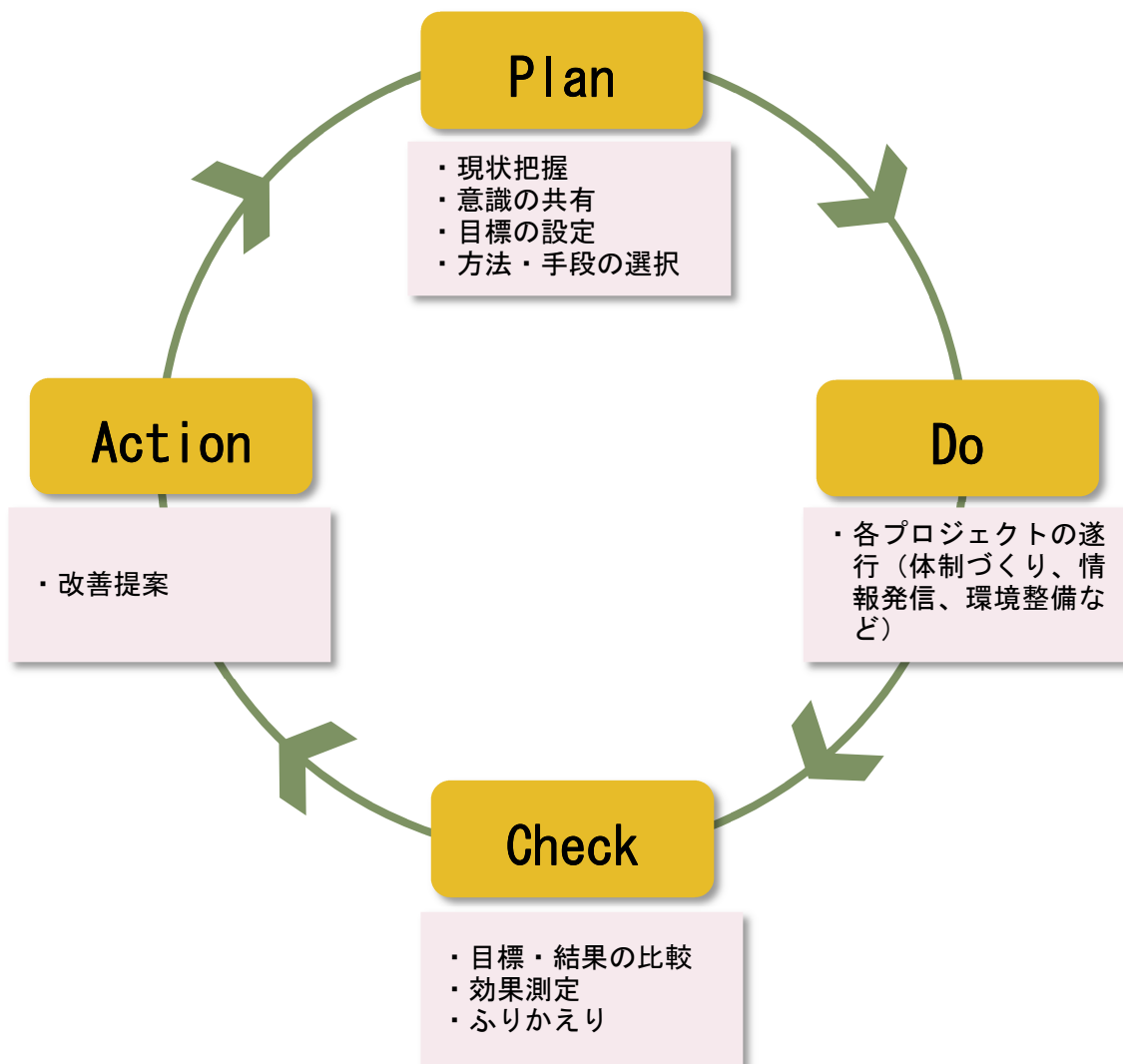
【役割のイメージ】



2. 進捗管理

本計画の将来像を実現するためには、計画に基づく事業推進についての進捗管理を行う必要があります。そのため、PDCAサイクル（Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善））のもとで、計画を実行し、それを進捗評価・改善、そして計画の見直しを行います。

本町においては、今後観光地域づくり推進団体の立上げや道の駅かでなのリニューアル等、施設の整備が実施され、観光地域づくりを取り巻く環境が大きく変化することが予想されることから、計画期間中であっても、必要に応じて計画の見直しを行っていきます。



発行日：2018（平成 30）年 3 月

発行者：嘉手納町役場産業環境課

〒904-0293

沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納 588

TEL:098-956-1111